

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3371000203
法人名	有限会社 げんき
事業所名	グループホームげんき
所在地	岡山県新見市下熊谷1554-1
自己評価作成日	令和 4 年 5 月 20 日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3371000203-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 4 年 6 月 4 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・ご利用者が笑顔で安心して生活を送っていただける環境作り、生活への支援に努めています。

・小規模の施設だからこそできる、メンタルケアや雰囲気づくりに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家族の意見や要望に耳を傾けながら、利用者が利用者らしく落ち着き、我が家で生活している。自然と共存しようと、地域ならではの食材やオーナーが作った米、野菜もフルに活用し、経費節約も考え、旬と合わせて健康状態を維持できるように取り計らっていて、本当に美味しい。また、どのようにしたらフラストレーションを回避できるのか職員と相談しながら日々をチャレンジしている。コロナ前は大学の教養の場として実習をしていて、若い方の意見や発想を聞く場があって、職員は、窮屈だが、気が引き締まったようだ。地域の貢献から縁が遠ざからないために、散歩の方や学生のお自転車通学、花植えの行事等、出会ったときに挨拶や手を振ったりして、身近な活躍の場としている。地域と溶け込んだ元気な姿と自然の中で生活を歩むことで、笑顔が絶えず満ち溢れていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	有限会社アウルメディカルサービス	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・当ホームの地域における役割。それに基づく職員の役割割り・認識を月1回の職員会議・毎朝のミーティング等で話し、実践につなげている。	理念は、リビングに掲示している。開設当初から変えておらず、申し送りの中でも伝えており、職員は即答することができている。	理念を玄関に大きく掲示し、地域の方にも姿勢を納得して頂いてはいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・新型コロナウイルスの感染予防の取り組みとして現状しばらくの間、交流を含め外部との接触の制限を行っている。	新型コロナウイルスの影響から、祭りへの参加や大学生の実習の受け入れが難しくなり、刺激が減っているが、花見に行く、通学や地域清掃時に挨拶をする等、できる活動から行っている。また、職員が大学に講義に行くことで、事業所や利用者を知ってもらっている。	利用者が作ったカレンダーを消防署や警察・学校に持参し、事業所とさらに密接な関係を築いてはいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・例年新見公立大学から学生の認知症ケアについての実習の受け入れを行っているが、上記同様にしばらくの間見送っており、同大学のリモート講演の依頼に応じ協力行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・隔月で運営推進会議を行い、行政からの報告・指導、家族の意見を頂き、日々の生活支援に活かしていたが、接触の制限のため、当面資料送付にて代行。	運営推進会議は、隔月で開催しており、利用者の家族、民生委員、包括支援センターの職員は必ず参加している。新型コロナウイルスの影響から、集まるのが難しいため、書面を送付している。支援や会議の様子を映像を通じて教えて欲しいとの要望があり、実践している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・常に連絡・相談・報告をさせて頂き、ご指導も頂いている。	運営推進会議を開催する中でも、市との連携は図れている。月に1度、管理者が書類提出のため役所に行った際には、随時、指導や新しい情報を受け取ることができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束についての研修を行っている。 ・当ホームでは拘束は行っていない。	研修を行い、身体拘束は行われていない。スピーチロックをしないために「ちょっと待って」と伝えるだけでなく、時間等の目安を伝える様にして、職員間で共有しながら拘束にならないよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・虐待についての研修を行っている。 ・当ホームにおいて、身体的・言動的な虐待に及ぶ事の無いように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・人としての権利、後見制度等についての施設内での研修を行っている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・常日頃より、ご家族との連絡を密に行うよう心掛けており、説明と承諾を頂く様努めている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・意見交換の場であった家族会を自粛中。機会のある際に個々にご意見を頂く様努めている。 ・苦情相談窓口を設置している。	家族や近隣住民から、苦情は入っていない。利用者からは、食事の嗜好に対する要望が多く、意向に添えるよう配慮している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員会議、ミーティングなどを通じ職員の意見を聞き、活かすべきは活かしている。	職員会議や朝の申し送りの中で、職員間の意思疎通が図れている。うまく距離を測りながら、私事の話もできており、役職にこだわらない関係が築けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・職員個々の得意分野、能力に応じて業務内容に配慮、ストレスの軽減に努めている。勤務希望に応じ無理のない勤務状況としている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・施設内外の研修、資格取得についても施設として、できるだけ配慮を行っている。 ・施設内研修を定期的実施し、職員の能力向上に努めている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・新見市内グループホーム・小規模多機能居宅介護施設連絡会に所属しているが、感染予防取り組みとし接触の自粛、制限中。連絡は取り合っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・ご本人、家族等より情報を頂き、想いに添い不安を軽減できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族の思いをお聞きし、そのお気持ちに添えるような生活支援ができる様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・その時に必要としている支援を見極め、必要な情報提供等行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・家庭的な雰囲気作り、本人との信頼関係の構築の工夫に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・ご家族の生活状況、不安、ご本人の思い、不安等を聞かせて頂き、当ホームがご本人と家族とより良い関係が保てるパイプ役となるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・生活歴、趣味等を生活環境の整備等に活用。馴染みの場所へ機会のある際にお連れしている。	住まれていた地域へドライブでお連れするなど、親しまれていた場所を想起する機会を設けている。職員から利用者の住まれていた地域の方言を用いた会話をすることで、グループホームに一層馴染めるように努めている。利用者間の関係性も良く、お互いに親しみを持たれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・職員ではできないメンタルケアを、ご利用者同士で助けて頂いている事は良くある。ご利用者同士の関係性の構築の為のサポートにも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・状況に合わせた相談は、随時受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・定期的に嗜好、意向の調査を行い、ご利用者のQOLの向上への支援を行っている。	月に1度は、意向確認を行い、生活の質の向上に努めている。利用料の支払いのために、利用者の家族が月に1度は来所されているため、家族からも定期的に意向を聞き取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・生活歴や習慣等の情報を密に取り入れ、それに近い状況での生活支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・ご利用者個々に適切な支援が行える様、常に状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・時々状況に応じてご家族等と話し合い、その思いに添った介護計画の作成を行っている。	支援の評価は、計画作成者だけで行うのではなく、職員間で確認を行い、書面に落としている。会議や申し送りで共有し、支援方針をすり合わせた上で、日々の支援に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・定時の記録、ミーティング及び常時意見交換を行い、個々のケア内容への活用、介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・病院等との連携、協力を頂き、その時々ニーズにスムーズに対応できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域資源の把握、活用を行い、安全で豊かな生活の維持に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・かかりつけ医への受診等定期的に行っている。	事業所としてかかりつけ医を定めているのではなく、利用者各々のかかりつけ医への通院を、事業所が行っている。医師も利用者のことをよく理解していて、利用者も家族も安心している。詳しい報告を受けていて、介護に活かしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・看護師居り、情報交換、意見交換を行い、受診時医師に、正確な情報提供ができる様になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	・定期受診時に病院の関係者の方との関わり、情報交換、指導を頂いている。 ・新見医療連携情報共有書も活用している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・ご家族と協議。双方に納得がいくよう、ターミナルケアについては話をしている。	ターミナルケアについては話は挙がっているが、実際には行われていない。先月1名の方が入院されたが、医療機関と連携し対応が行われた。それ以前の2年間は、入院される利用者はおられなかった。その方にあつた生活の場については、日々検討を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・施設内研修実施。その際に初期対応の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・定期的な避難訓練の実施。地元の消防団にも有事の時には協力体制を取ってもらっている。 ・災害時対応マニュアルの作成。	避難訓練は日中に行っている。訓練時に消防署の方は来れないが、有事の際の協力関係は築けている。災害時のマニュアルは、フローチャート化して、リビングに掲示している。事業所内には、数日分の水分を確保しており、食品は職員の自宅で保管している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生活歴や性格を尊重し、適切な対応、言葉かけを行っている。 ・施設内で人権尊重、権利擁護の研修を行っている。 	<p>利用者の呼称は、基本的に苗字に「さん」を付けて呼んでいる。ただし、同性の方がおられる場合には、名前に「さん」を付けて呼んでいる。日々の申し送りの他、人権尊重、権利擁護をテーマに掲げた研修を、年に1度は行っている。</p>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・自身で判断可能な事柄には常にお尋ねし、意思の尊重ができる様に努めている。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の生活の中でその時々のお気持ちの変化に添うようにしている。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・衣服の選択等本人の希望を尊重、身だしなみの支援を行っている。 		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・季節を感じられる献立を工夫している。 ・QOLの向上を図り、時々ではあるが簡単な調理に参加して頂いている。 ・定期的に嗜好調査を行い、希望されるものを提供できるように努めている。 	<p>オーナー自ら作った米や野菜をふんだんに使い、季節感を大切にメニューを、目安として利用者に提供している。利用者の気持ちを優先し、希望があれば、当日にメニューの変更も行い、玉ねぎの皮を剥く等、利用者のできる簡単な調理にも取り組んで頂いて役割を尊重している。</p>	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食事内容、食事形態に個々に合わせた工夫を行っている。 ・摂取量のチェックも行っている。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食後の歯磨きの声かけ、必要に応じて介助を行い、夜間は義歯洗浄、消毒し、清潔を保っている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄チェック表により、排泄の声かけ、介助を行っている。	排泄チェック表を用いて声掛け及び介助を行っている。布パンツを使われている方も2名おられる。便の状態も記録として残している。できる限り、自立できるように見守っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・身体を動かす運動を多く取り入れ、食事、おやつ等の工夫等行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・週2回の入浴実施。 ・希望に沿って可能な範囲で日時の変更に対応している。	入浴を嫌がられる方もおられるが、工夫を凝らすことで、入浴する楽しみを与えている。利用者の意向から、入浴とシャワー浴を選べるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・個室にはいつでも休んで頂けるよう、環境を整えている。その人らしい居室の工夫を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・受診時に必ず、内服薬の説明書を頂き、個人ファイルに綴り、いつでも閲覧、確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・レクリエーション、軽作業の中に取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・季節ごとの行事、外出支援、見学等に随時出かけていたが、感染予防の為、現在は制限行っている。	通院等の機会を活用し、個々にドライブや花見を行っている。天気の良い日には、施設周辺の散歩を行い、桜の木や庭の様子を見ることも楽しみとしている。近隣の方との縁が途切れないように、手を振ったり、おしゃべりしたりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・ご本人にお金を持っていただく事はしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・随時電話でのやりとりは行っており、ご利用者の心身の安定に繋がっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節に応じた壁飾り、生花、思い出の写真等の掲示で、個々に合わせた家庭的な雰囲気作りに努めている。	室温は利用者に確認し、調整している。時には窓を開けて風を通し、快適な空間を作って、殺菌効果も図っている。外の庭も、ラジオ体操等で活用していることから、利用者が一緒に過ごすことができる場所となって話題も豊富となっている。月に1度の意向確認の中で、思いを汲み取っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・食卓や居間では、相互の関係性等に配慮し席や場所の工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居室内の環境作りは個々の好みや慣れ親しんだもの等を活用し、居心地よく生活できるように工夫を行っている。	居室の飾りは、季節感を出し、すっきりとした雰囲気となるように心がけている。個室で使う毎月のカレンダーには、利用者本人に塗り絵をして頂き、満足気に笑みを浮かべていた。好みのポスターを貼る等、その人らしい空間を作って楽しい我が家となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・手すりを多く設置し、自力で移動、行動できやすくしている。建物はオール電化、段差なしで安全の確保に努めている。		